

用語解説

CO（一酸化炭素）

重油がガソリンなど炭素を含む化合物が不完全燃焼したときに発生する無色、無臭の気体で、工場・事業場や大気中に排出されますが、都内では自動車に起因しています。

dB（デシベル）

デシベルは、2つの量の比の常用対数表示の10倍で表われ、情報論理など理学・工学で広く使われている。騒音においては、音圧比やパワー比等に広く用いられている単位です。

DO（溶存酸素）

水中に溶解している分子状酸素をいい、空気中から溶け込むものが大部分であるが、その量は水温の上昇とともに減少します。

HC（炭化水素）

炭素と水素を含む有機化合物の総称で、自動車や石油製品、有機溶剤を取り扱う事業場などから排出されます。窒素酸化物とともに光化学スモッグの主因物質として考えられています。

MBAS

メチレンブルー活性物質（Methyren Blue Active Substances）の略で水質分析の一指標であり、この濃度を測ることにより水中の陰イオン系界面活性剤濃度を測定します

ND

不検出（Not Detected）の略で、精度の高い分析機器でも検出できる濃度に限界があり、含まれていないということを証明することはできないため、検出限界以下の場合に用います。

NO_x（窒素酸化物）

燃料などが高温で燃焼するときに発生する一酸化窒素（NO）と大気中でNOが酸化してできる二酸化窒素（NO₂）が代表的であり、炭化水素とともに光化学スモッグの主因物質と考えられています。

O_x（光化学オキシダント）

大気中の窒素酸化物や炭素水素が、太陽光線によって複雑な光化学反応を起こしてつくられるオゾン等の酸化性物質の総称です。光化学オキシダントによる大気汚染は光化学スモッグといわれ、目がチカチカするといった人的影響のほか、植物の葉の組織を破壊するといった影響が指摘されています。

PCB

ポリ塩化ビフェニル（Poly Chlorinated Biphenyl）の略で、二つのフェニル基が結合したビフェニルに塩素が多く付加している化合物の総称です。化学的には安定していて、絶縁油・熱媒体・可塑剤などに広く使われたが、生体に蓄積され有害なため、現在は使用禁止されています。

pH（水素イオン濃度）

水の酸性、アルカリ性を示す指標となるもので、0から14の間の数値で表現され、pH7が中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7を超えるほどアルカリ性が強くなります。

ppm

濃度や含有率を示す時に用いる容積比や重量比を表す単位で、100万分の1を1ppmといます。

SO₂（二酸化硫黄）

石炭や石油などに含まれている硫黄分が燃焼することによって発生します。また、火山活動によっても発生します。ぜんそくや気管支炎等の病気の原因や酸性雨の原因の1つとも考えられています。

SPM（浮遊粒子状物質）

浮遊粒子状物質のことで、大気中の粒子状物質のうち、粒径10μm以下のものをいいます。工場等の事業活動や自動車の走行に伴い発生するほか、風による巻き上げ等の自然現象によるものもあります。

SS（浮遊物質）

水中に浮遊して、溶解しない物質の総称で、水の汚濁の状態を示す指標の1つです。

まいくろぐらむ

μg

1gの1,000分の1が1mgで、1mgの1,000分の1がμgです。

本編の用語解説に掲載されているものについては割愛しています。